

履歴書

2026年 01 月 18 日 現在



ふりがな	むん そんちよる	
名前	文 晟 哲	
	1993年 2月 5日生 (満 32 歳)	男・女
ふりがな	とうきょうとたいとうくあさくさばし	電話 090 - 3545 - 5358
現住所	〒 1110053 東京都 台東区浅草橋 プライマル浅草橋301号室	Email myslownavi@gmail.com

年	月	学歴
2011	3	忠南機械工業高等学校 精密機械科 卒業
2011	4	大徳大学 機械工学部・精密機械工学科 入学
2011	6	大徳大学 中途退学 (家庭の事情により退学)
2018	10	Academic Credit Bank System コンピュータ工学部 入学
2022	8	Academic Credit Bank System コンピューター工学科 卒業
職歴		
2012	9	兵役 大韓民国国軍 陸軍入隊
2014	6	兵役 大韓民国国軍 陸軍兵長 (満期除隊)
2017	10	Hanvit Power 入社
2019	4	大学の勉強に集中するため退職
2019	8	山林組合 入社 (雇用形態 契約社員)
2022	6	日本での就職活動のため退職
2023	4	株式会社マイナビ 入社 (雇用形態 正社員)

		免許・資格
2012	6	第一種運転免許普通自動車
2022	6	応用情報技術者
2023	11	AWS SAA(Solutions Architect - Associate)
2024	4	AWS SCS(Security - Specialty)
2024	7	GoogleCloud Professional Cloud Architect
2026	1	求人広告取扱者資格

2026	1	日本語能力試験 JLPT N1

■ブランク期間について

- ・2011年11月～2012年6月
 - ・兵役が終わった後に使う生活費を稼ぐため、バイトをしていました
- ・2014年8月～2017年05月
 - ・エンジニアになるため、国費で運用される教育機関でプログラミング(主にJava)を学んでいました
 - ・学習記録用のブログ：<https://blog.naver.com/icet25>
- ・2022年9月～2023年3月
 - ・日本就職向けの教育機関から就職活動をし、韓国で行われた日本向けのジョブフェスティバル (Career in Japan)へ参加して現在に至ります

■ビザについて

- ・在留資格： 技術、人文知識、国際業務
- ・在留期間： 5年 (2023.03.22～2028.03.22まで)

■その他

- ・教育機関の修了証と受賞履歴
 - ・https://drive.google.com/drive/folders/1rSUsOw2Dosb5Nq9zqtZVJFgNmTonyEIr?usp=drive_link
- ・応用情報技術者(資格は韓国で取得したものである、ただ、国家間での資格の相互性は認められている)

職務経歴書

職務要約

株式会社マイナビにて約 3 年間、AWS インフラエンジニアとしてサービス基盤の設計から運用まで一貫して担当。AWS CDK による IaC 標準化と運用改善を推進し、SSO 承認自動化システムで月間運用工数 92%削減、マイナビバイトサイトで 19 ヶ月間トラブルゼロ運用と運用コスト 30%削減を実現。サブリーダー、担当者として関係者調整を行いながら、複数プロジェクトの並行推進と業務改善を主導。

強み

- 目的(Why)を起点とした本質理解と、PDCA サイクルによる複数プロジェクトの期限内完遂力
- 信頼関係を基盤とした「巻き込み力」と課題解決力
- アジャイル開発手法による迅速な改善サイクルの推進
- コスト意識と実装力を掛け合わせた「定量的な業務改善」
- 未経験領域でも素早く学び取り、成果に転換する吸収力

活かせる経験・知識・技術

クラウド技術・アーキテクチャ（設計と開発）

- AWS CDK（TypeScript/Python）を用いた開発と IaC 標準化
- サーバーレスアーキテクチャおよびコンテナの設計・構築
- AWS 認定資格（SAA, SCS）と GCP PCA に基づくマルチクラウドの知見
- CI/CD パイプライン構築によるデプロイ自動化
- 生成 AI ツール活用による開発効率化と技術実装力

定量的な成果とプロセス改善（コスト・仕組み化）

- コスト意識と実装力を掛け合わせた定量的な業務改善（ROI）
- 属人化を排除する「仕組み化」と運用工数削減
- 安定稼働の実現と品質保証

信頼関係とプロジェクト推進力（ソフトスキル）

- 信頼関係を基盤とした「巻き込み力」と課題解決力
 - ビジネス状況に合わせた優先順位判断とアジャイル推進力
 - 性質の異なる並行プロジェクトを完遂するマネジメント力
 - 技術指導を通じた次世代人材育成とチーム貢献
-

開発環境・技術スタック

【開発方法】

- アジャイル

【OS / クラウド】

- Linux (Ubuntu, Amazon Linux 2), Windows / AWS, GCP

【言語 / IaC】

- Python, TypeScript, Shell Script, YAML / AWS CDK, CloudFormation

【開発 / テストツール】

- VSCode, Cloud9, Code-Server, Amazon Q Developer CLI, Google Apps Script (Clasp), SendGrid, Power Automate / pytest, moto, boto3

【CI/CD】

- GitHub Actions, AWS CodeBuild, AWS CodePipeline, AWS ECR, Docker, Ecspresso

【ドキュメント・設計】

- Cacao, Draw.io, DocBase, Google Docs, Microsoft Forms

【プロジェクト管理】

- Asana, GitHub

【コミュニケーション】

- Slack, Zoom, Microsoft Teams

職務経歴

株式会社マイナビ ソリューションサービス部(2025年10月～現在)

2025年11月～2026年01月 | GoogleBot アクセスログ抽出・分析基盤構築

【役割・規模】

- 担当者 / 全1名

【プロジェクト概要】

- SEOヘルスチェックの一環として、マイナビバイトサイトのAWS CloudFront アクセスログからGoogleBotのアクセスログのみを抽出し、AWS S3 バケットからのデータを基にGCP BigQuery・Google スプレッドシートと連携するSEO分析基盤を構築。クローラーが意図したページに正しくアクセスしているかを可視化・分析可能な環境を整備。

【業務内容】

- 要件定義書・設定手順書・見積書の作成、AWS設定からGCP BigQuery 連携・SpreadSheet 出力までの一貫した実装・検証（Management Console から実装）
- 後輩社員（2年目）への技術指導（マイルストーン設定、タスク洗い出し、AWSアーキテクチャ作成方法、窓口対応サポート）
- セキュリティ要件対応（社内 Access Key 流出事件を踏まえ、IAM + BigQuery Omni によるキーレス連携を採用）

【実績・取り組み】

- 開発ベンダーとのSLA契約（インフラ月80人日）のうち、マイナビバイトの新アップデートリリース直後で運用保守に60人日以上を消費し、残り20人日も緊急対応用バッファとして確保が必要な状況下、追加ベンダー工数ゼロの内製対応で要件を実現
- 年間約\$2(1月/\$0.16)の低コストアーキテクチャを設計し、コスト効率の高いソリューションを提供
- 後輩社員が独立してプロジェクト期限設定・タスク管理・窓口対応時の重要事項把握ができるレベルまで育成
- Access Key を使用せず、IAM を基盤としたセキュアなAWS-GCP 連携設計により、社内セキュリティ基準を遵守

株式会社マイナビ クラウドエンジニアリング部(2023年04月～2025年10月)

2025年09月～2025年09月 | AWS 教育支援用 Sandbox 環境エンジニアブログ執筆

【役割・規模】

- 担当者 / 全1名

【プロジェクト概要】

- 2025年7月にAWS公式Sandbox環境がリリースされる以前から社内で構築していたAWS教育支援用Sandboxシステムの認知度向上および技術広報活動の一環として、マイナビのエンジニアブログ記事の企画・執筆・投稿。

【業務内容】

- 社内Sandboxシステムの利用方法および利点を紹介するブログ記事の執筆
- 技術的な内容を分かりやすく伝えるための構成検討
- 自社エンジニアブログへの投稿対応

【実績・取り組み】

- 記事公開により社内Sandboxシステムの認知度向上および外部への技術発信に貢献
 - URL: <https://engineerblog.mynavi.jp/technology/aws-sandbox/>

2025年05月～2025年09月 | AI サービスを用いた業務最適システムの企画・検討

【役割・規模】

- サブリーダー / 全2名

【プロジェクト概要】

- 組織のAI対応力強化を目的とした業務最適化システムの企画・要件定義フェーズ。AIシステム開発における経験と知見の不足という現状課題を解決し、開発効率の向上、品質の担保、リスクの最小化を実現する技術基盤確立のための準備プロジェクト。

【業務内容】

- 社内アンケート調査の実施および議事録・要件定義書・システム開発企画書の作成
- Amazon Bedrock 利用準備（社内セキュリティ部門への問い合わせ、AI利用申請書および手順書の作成・チーム内共有）
- 開発環境の準備（Gitリポジトリの作成、Slackチャネルの開設、Asanaプロジェクトの作成、プロジェクトコード発行依頼等）

【実績・取り組み】

- AI技術導入に向けた社内承認プロセスを整備し、今後のAI活用基盤を確立
- 企画・要件定義フェーズを完了し、組織のAI対応に向けた基礎的な知見とプロセスを構築
- 複数プロジェクトの同時並行という制約下でも、PDCAサイクルの実践と生成AIツールの活用により、スケジュール通りの完了を実現

2025年07月～2025年09月 | マイナビ事業部 AWS 環境コスト削減

【役割・規模】

- 担当者 / 全6名（インフラチーム5名、事業部側1名）

【プロジェクト概要】

- 事業部のオンプレミスインフラ環境が AWS 環境へ移行し、約1年が経過したため、ランニングコストの見直しを行い、コスト削減を実施。

【業務内容】

- 現状コスト分析および削減施策案検討、提案書、議事録作成
- 事業部との要件調整およびプロジェクト進捗管理・ミーティング主導
- RI（Reserved Instances）、SP（Savings Plans）の導入推進
- 踏み台サーバおよび RDS 夜間・休日停止スケジュールの設定
- S3 ライフサイクルポリシーの設定
- 事業部担当者向け Management Console の設定手順書の作成・提供
- 事業部向けインフラ構成図・見積もり書作成

【実績・取り組み】

- 事業部のインフラ環境に接続権限として ReadOnly 権限しかなかったため、自分の検証環境に同じ環境を構築。
 - 検証環境での事前テストにより本番環境への安全な適用を実現し、年間約\$7,200のコスト削減を達成
 - 設定手順書の提供により、事業部担当者の作業工数を約60%削減（従来15-20時間→約5時間に短縮）
 - コスト削減のノウハウをドキュメント化し、社内の知見として蓄積
-

2025年06月～2025年09月 | SSO 承認自動化フローシステム保守

【役割・規模】

- 担当者 / 全1名

【プロジェクト概要】

- SSO 承認自動化システムの運用期間中に実施した品質強化施策として、テストコード整備による保守性向上および社内標準統合承認システムへの移行対応。

【業務内容】

- 単体テストコードの作成（pytest、moto、boto3を活用）
- テストコード概要および実行手順書（README）の作成
- 社内標準統合承認システムへの移行対応
- インフラ構成図更新

【実績・取り組み】

- 5モジュール・全21関数に対する単体テストを整備し、テストカバレッジ100%を達成。
- システム移行後4ヶ月間、障害発生ゼロを維持。
- ドキュメント整備により引き継ぎ時間を最大75%短縮。属人化を排除し、今後の保守性を向上

2025年05月～2025年06月 | 生成 AI アシスタント PoC (概念実証)

【役割・規模】

- サブリーダー (技術検証リード) / 全 2 名

【プロジェクト概要】

- インフラチームの開発効率化および AI 活用促進を目的とした、Amazon Q Developer CLI の実用性検証プロジェクト。

【業務内容】

- 個人検証環境への Amazon Q Developer CLI の導入および動作検証
- AWS 公式 MCP サーバーと連携したカスタムエージェントの設計・実装 (開発ルールの統合)
- 検証結果のドキュメント化およびチーム内への利用ガイドライン策定

【実績・取り組み】

- AI による事前検証導入で、コードレビュー待ち時間を最大 5 日から 2 日以内へ約 50%短縮
- KISS/DRY 等の開発原則をエージェントに定義し、単純な規約違反による手戻りを削減
- AWS Kiro 正式リリース前に Specification-Driven Development の実践手法を確立
- Q Developer の機能拡張可能性を実証し、AI 開発支援ツール導入の判断材料を提供
- 検証ナレッジの共有により、チーム内のツール習熟期間短縮と業務効率化に貢献

2024年10月～2025年09月 | SSO 承認自動化フローシステム

【役割・規模】

- サブリーダー / 全 4 名 (PM1 名、PL1 名、サブリーダー1 名、メンバー1 名)

【プロジェクト概要】

- 手作業により運用負荷が高かった AWS SSO アカウント権限付与プロセスを自動化する社内システムの開発。

【業務内容】

- プロジェクト管理およびメンバーの進捗管理
- AWS Step Functions, Lambda 等を活用したサーバーレスアーキテクチャの設計・実装
- API Gateway および SendGrid/Slack API 連携による通知機能の構築
- システム構成図・運用マニュアルの整備およびリリース後の保守・障害対応

【実績・取り組み】

- 月間約 68 時間から約 5 時間に削減 (92%削減) し、承認プロセスの大幅な効率化を実現
- WBS に基づく進捗管理と技術的課題の早期解消により、全工程での納期遅延ゼロ (On-time Delivery) を達成
- リリース後の障害検知から復旧までの時間を平均 30 分以内に短縮する運用フローを構築し、SLA 遵守に貢献
- 運用フェーズでは安定稼働を維持し、エラー対応を通じてシステムの信頼性を向上
- 包括的なドキュメント整備により属人化を解消し、スムーズな引継ぎと持続可能な運用体制を確立

2024年06月～現在 | マイナビバイト顧客体験向上PJ インフラ保守・運用

【役割・規模】

- インフラ担当者 / 全5名（アプリチーム3名、インフラチーム2名）

【プロジェクト概要】

- マイナビバイトの顧客対応システム（意見・要望などの問い合わせに対応するサイト）において、開発フェーズから引き継ぎを受けたメンバーとして参画し、リリース後も保守・運用を一貫して担当。

【業務内容】

- インフラ担当者として構成図管理を含めたインフラ全般を担当
- アーキテクチャ設計、AWS CDK による IaC 実装、CI/CD パイプライン構築（GitHub Actions 連携）
- コンテナ間通信の最適化、WAF による IP 制限対応、追加機能拡張
- 開発チームからの要望対応、インフラ見積もり作成

【実績・取り組み】

- 事前に DB の EOL を把握し、マイナーアップデート対応によるサービス安定運用に貢献（運用開始から19ヶ月間トラブルゼロ達成）
- コンテナ間通信の最適化により、マッチングされた求人情報のリアルタイム表示を実現
- 既存システムの最適化により運用コストを30%削減。さらに、新規機能拡張では当初見積もりから90%のコスト削減を実現
- CI/CD パイプラインの構築により、開発チームの運用効率向上に貢献
- 開発チームとの要件調整を通じ、優先度に基づいた機能拡張をスムーズに実現

2023年12月～2025年04月 | AWS 教育支援用 SandBox システムの保守・運用

【役割・規模】

- メンバー / 全3名（PO 兼 PM1 名、メンバー2名）

【プロジェクト概要】

- 社内全社員が AWS サービスを自由に試せる実験・学習用環境（SandBox）を提供する教育支援システムに、引き継ぎを受けたメンバーとして開発フェーズから参画しリリース後の保守・運用まで一貫して担当。

【業務内容】

- AWS CDK/CloudFormation を用いた IaC 実装およびテストコード作成・インフラ構成管理
- AWS Nuke・SCP・Budgets を活用したガバナンス強化およびコスト管理機能の実装
- Slack/PowerAutomate を連携させたアラート通知ワークフローの構築
- 利用者向けマニュアルの整備および問い合わせ対応プロセスの改善

【実績・取り組み】

- 申請通知のワークフロー構築により、対応リードタイムを最大30分から即時対応へ改善
- AWS Nuke と SCP 導入により、不要リソースの課金発生ゼロと予算超過の未然防止を実現
- マニュアル整備と環境改善により、利用者数を20%増加させつつ、月間の問い合わせ件数を約80%削減
- テストコード導入による保守性の向上と、継続的な安定稼働の維持

2023年10月～2025年09月 | 新卒向けハッカソン型インターンシップ

【役割・規模】

- メンター / 全 20 名

【プロジェクト概要】

- 新卒採用強化を目的とした年次ハッカソン型インターンシッププロジェクト。次世代エンジニア人材の早期発掘と自社への入社意欲醸成を図るイベントへメンターとして参画。

【業務内容】

- インフラメンターとして1つのチーム（6～8名）の学生に対する技術指導
- AWS マネジメントコンソールを用いた EC2 環境の構築、CDK を用いたインフラのコード化指導
- 可用性を重視したシステム構成図の作成方法の指導
- 5項目の構造化された学生評価シートの作成

【実績・取り組み】

- 2023年度入社後から毎年2～3回開催されたイベントにて、継続的に技術指導を担当（累計約50名の学生を指導）
- 学生の技術的成長をサポートしながら、自社の技術力と多様性を重視する企業文化の魅力を伝達
- 評価シート作成により、人事部門の採用関連工数を約60%削減（約15-20時間）
- 外国籍でありながら日本語でのコミュニケーションに問題なくプロジェクトに取り組み、最近（2025年8-9月のアンケート実施結果）では10点満点中、平均満足度9.4点を達成

2023年09月～2024年11月 | 経理業務

【役割・規模】

- 担当者 / 全 1 名

【プロジェクト概要】

- 課内の経理責任者として、月次発注・検収業務の一元管理と適切な文書管理を担当。

【業務内容】

- 月間約15件の発注管理、検収業務、請求書処理
- 取引先とのメールでのやり取り
- 請求書の適切な保管
- Asana を活用したタスク管理

【実績・取り組み】

- 正確かつ迅速な処理により、部門の予算執行と支払い業務の円滑な運営に貢献
- 14ヶ月間で約210件の経理業務を正確に遂行（処理ミスゼロ達成）
- 効率的なタスク管理体制を確立

海外職務経歴（韓国）

山林組合（2019年08月～2022年06月 | 退職）

【所属】

- 経営情報チーム

【役割】

- サブリーダー（全5名）

【業務内容】

- 特殊改良車両および測定機器を活用した全国調査ポイントの巡回と大気汚染データの測定実施
- 調査地点ごとの電力供給のため、周辺の民間・公共機関・個人事業者に対する事前協力依頼および交渉
- 電気使用料の交渉および使用承認の確保

【実績・取り組み】

- 測定期間中の安定的な電力インフラの構築に貢献
- 全国調査ポイントにおける大気汚染データの正確な測定を完遂

Hanvit Power（2017年10月～2019年04月 | 退職）

【所属】

- バルブ診断チーム

【役割】

- メンバー（全20名）

【業務内容】

- 韓国国内の原子力発電所の安全システムバルブに対する定期点検および状態診断を実施
- バルブの作動試験、漏れ検査、性能評価の実施
- 点検結果のデータ記録・分析

【実績・取り組み】

- 異常兆候の早期検知と予防保全により、設備の安定稼働に貢献
- 原子力施設の安全性維持に貢献

資格

- 第一種運転免許普通自動車 | 2012年6月
- 応用情報技術者 | 2022年6月
- AWS SAA(Solutions Architect - Associate) | 2023年11月
- AWS SCS(Security - Specialty) | 2024年4月
- GoogleCloud Professional Cloud Architect | 2024年7月

- 求人広告取扱者資格 | 2026年1月

受賞歴

- 2025年10月 プロジェクト賞（品質賞）団体賞受賞
（クラウドエンジニアリング部の一員として、生成 AI 活用による開発効率化の推進に貢献）

自己 PR

私は「**吸収力と巻き込み力で組織課題を解決するインフラエンジニア**」として、コスト意識に基づく定量的な成果創出を通じて、組織全体の生産性向上に貢献してきました。

- 目的(Why)起点の本質理解で、複数プロジェクトを期限内完遂**
 - 「なぜ必要か」を深掘りし、**明確なゴール設定**と準備事項の洗い出しを徹底。方向性のブレを防ぎ、**PDCA サイクル**を回すことで、複数プロジェクトの並行推進でも期限内完遂を実現。
- 数字で語れる業務改善と安定稼働の両立**
 - ドキュメント整備や IaC 化を徹底し、SSO 承認自動化で**月間工数 92%削減**、AWS コスト削減 PJ で**年間\$7,200 削減**を実現。マイナビバイトサイトでは**19ヶ月間トラブルゼロ**を維持しながら**運用コスト 30%削減**を達成。
- 信頼関係で推進するアジャイル開発**
 - 「**相談しやすい環境**」を自ら作り、チームの知見を結集して課題を解決。短いサイクルで改善を繰り返す**アジャイル手法**で、変化に強いシステムを構築。
- 未経験領域でも素早く学び、成果に転換する吸収力**
 - Amazon Q Developer CLI などの最新 AI 開発支援ツールをいち早く検証・導入。短期間で基本機能を習得し、AWS Kiro 正式リリース前に Specification-Driven Development の実践手法を確立。**コーディングやドキュメント作成の工数削減**を実現し、技術トレンドを即座に**チームの生産性向上**へ変換。

特に、「**巻き込み力**」と「**未経験領域でも素早く学び、成果に転換する吸収力**」を自らの強みとしています。

未経験の AI 領域でも、まず自分で調べて理解したうえで周囲と連携する姿勢を貫き、短期間でキャッチアップ。得た知見をチームに還元することで、プロジェクト全体の底上げに貢献しました。

また、私はプロジェクトにおいて「**個人のカ**」よりも「**チームの総力**」を重視しています。

日頃から職種や立場を超えた信頼関係（巻き込み力）を築くことで、困難な課題でもスムーズに協力を仰ぎ、プロジェクトを最短距離で成功へと導くことができました。

今後もこの「**吸収力**」と「**巻き込み力**」を活かし、より高いレベルでの課題解決と組織貢献を実現していきたいと考えています。